

# 静浦地区小中一貫校基本計画

沼津市教育委員会

平成 2 2 年 9 月

## は じ め に

沼津市は、平成 21 年 1 月に「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的にした「沼津市教育基本構想」において、小中連携の推進を掲げ、「今後は、小中一貫教育を含め、児童生徒の成長過程や学習の連続性などを重視した連携への取組を、より一層進めていくことが必要です。」と小中一貫教育について明記いたしました。

また、国では法改正により、義務教育の目的・目標が明記され、義務教育 9 年間を見通した教育が一層重視されてまいりました。

沼津市におきましては、静浦地区における少子化による児童生徒数の減少や中学校の立地条件の課題から、よりよい教育環境の整備を目指して、静浦地区小中一貫校の設置について検討を進めるとともに、静浦地区各自治会と協議を重ね、静浦地区小中一貫校検討会の「提言」や、静浦地区小中一貫校推進委員会の御意見を参考に、基本計画策定に向け準備を進めてまいりました。

今後の義務教育の新たな姿の創造を目的に、静浦地区小中一貫校では、大きな志やビジョンを持つ「夢ある人」づくりに向け、子どもたちに様々な夢に挑戦する機会をより多く用意して、一人一人の子どもたちが自分の存在を感じ取り、その可能性を広げることができるような教育を目指してまいります。

なお、次の三点を、その基本コンセプトとしております。

- ① 子どもの育ちの視点から 9 年間をとらえ、「9 年間の連続性」を生かし、「生きる力」をはぐくむ
- ② 「ことば」の活用を大切にした学習活動や交流活動を中心に据え、「生きる力」をはぐくむ
- ③ 静浦の人・自然・文化・産業等を生かし、「地域」全体で生涯学習を推進し、「生きる力」をはぐくむ

この基本コンセプトの下、学校・家庭・地域が目指す子どもの姿を共有し、9 年間、全ての教職員が一貫した指導を行うとともに、幅広い異年齢集団による様々な活動を通して、「生きる力」をはぐくむような小中一貫校を創設していく所存であります。

沼津市教育委員会  
教育長 工藤 達朗

# 目 次

I	静浦地区小中一貫校のねらい	1
II	基本コンセプト	2
III	小中一貫校プラン	
1	9年間の連続性	
(1)	教科等の9年間の縦のつながりと教科間及び学校行事等の横のつながりを重視した教育	3
(2)	子どもの育ちを重視した4-3-2制の区分	4
(3)	9年間の子どもの育ちを支える教職員集団	5
2	ことば	
(1)	学校図書館の充実による読書活動の推進	6
(2)	思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実	7
(3)	「ことば」を通して思いを伝え合える人間関係づくり	8
3	地域	
(1)	学校・家庭・地域が連携して進める環境教育	9
(2)	学校と地域の協働で創る双方向の交流	10
(3)	「ふるさと静浦」から学ぶ子どもの育成	11
IV	施設整備に関する基本方針	
1	施設整備に関する基本的な考え方	
(1)	小中一貫校整備の場所	12
(2)	整備の主な方針	13
2	個別計画の主な方針	
(1)	各施設の整備計画	14
(2)	その他の整備計画	16

## I 静浦地区小中一貫校のねらい

静浦地区小中一貫校は、「沼津市教育基本構想」に基づき、「9年間の連続性」「ことば」「地域」の三つを柱に、施設一体型一貫校だからこそできる小中一貫教育を目指します。

### <沼津市が目指す学校教育>

子どもたちには将来に対してさまざまな夢を持たせたいものです。その夢に挑戦する機会をたくさん用意して、一人一人の子どもたちが自分の存在を感じ取り、その可能性を広げることができるような教育を目指していきます。

### <静浦地区小中一貫校のねらい>

大きな志やビジョンを持つ「夢ある人」を育てるために、子どもの育ちの視点から9年間をとらえ、9年間の連続性を生かした教育により、「生きる力」をはぐくみます。  
そのために、教職員全体で9年間の子どもの育ちを支え、「ことば」の活用を大切に  
した学習活動・交流活動や異学年交流・地域との交流を通して自尊感情などをはぐくみ、  
子ども一人一人が夢や希望を持ち、個々の能力・特性に応じて、その人生を豊かにする  
ような学びを支えています。

### <目指す子どもの姿>

- 1 9年間で、大きな志やビジョンを持ち、目標に向け意欲的に努力する子ども
- 2 9年間で、体・徳・知<sup>※</sup>をバランスよくはぐくみ、自分の成長を実感して次の段階へ自ら進んでいける子ども
- 3 同級生や異学年（1～9年）の子ども、地域の人たちとかかわり合う中で、積極的に人とかかわっていこうとする態度をはぐくむとともに、自分のよさと周りの人のよさに気付き、自分も相手も大切にできる子ども
- 4 静浦の人・自然・文化・産業等について深く理解し、静浦の将来について真剣に考え、「ふるさと静浦」を誇り、大切にしていこうとする子ども

※ 体づくりや体験などを通してはぐくんだ「健康・体力」を基盤として、「豊かな人間性」や「確かな学力」をはぐくむことを目指しているため、「体・徳・知」の順としている。

## Ⅱ 基本コンセプト

# 未来をひらく三つの絆

－ 「9年間の連続性」・「ことば」・「地域」  
を柱に「生きる力」をはぐくむ －

### 1 9年間の連続性

～ 子どもの育ちの視点から9年間をとらえ、「9年間の連続性」を生かし、  
「生きる力」をはぐくむ ～

- (1) 教科等の9年間の縦のつながりと教科間及び学校行事等の横のつながりを重視した教育
- (2) 子どもの育ちを重視した4－3－2制の区分
- (3) 9年間の子どもの育ちを支える教職員集団

### 2 ことば

～ 「ことば」の活用を大切にした学習活動や交流活動を中心に据え、「生きる力」をはぐくむ ～

- (1) 学校図書館の充実による読書活動の推進
- (2) 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実
- (3) 「ことば」を通して思いを伝え合える人間関係づくり

### 3 地域

～ 静浦の人・自然・文化・産業等を生かし、「地域」全体で生涯学習を推進し、「生きる力」をはぐくむ ～

- (1) 学校・家庭・地域が連携して進める環境教育
- (2) 学校と地域の協働で創る双方向の交流
- (3) 「ふるさと静浦」から学ぶ子どもの育成

### Ⅲ 小中一貫校プラン

#### 1 9年間の 連続性

～ 子どもの育ちの視点から9年間をとらえ、「9年間の連続性」を生かし、「生きる力」をはぐくむ ～

#### (1) 教科等の9年間の縦のつながりと教科間及び学校行事等の横のつながりを重視した教育

- ① 体・徳・知をバランスよくはぐくむために、9年間で付けたい力を明確にし、主体的に学び、活動する子どもを育てる教育課程<sup>※1</sup>を編成します。
- ② シラバス<sup>※2</sup>を作成・公開し、教科等の9年間の縦のつながりと教科間及び学校行事等の横のつながりを重視した教育を行います。

#### ア バランスのとれた「健康・体力」、「豊かな人間性」、「確かな学力」の育成

- (ア) 体育・健康に関する指導は学校の教育活動全体を通じて適切に行い、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培います。
- (イ) 道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行い、特に、豊かな体験を通じた道徳性の育成及び指導の重点化を図ります。
- (ウ) これらの基礎の上に立ち、習熟度別少人数指導等のきめ細かな指導により、どの子にも確かな学力を保障し、「生きる力」をはぐくみます。

#### イ 9年間の学びを共有するシラバスの作成・公開

シラバスを作成することで、教科等の縦のつながりと教科間及び学校行事等の横のつながりが明確になるとともに、全教職員で授業づくりの考え方を共有します。また、公開することで、子どもと保護者は9年間の学びの見通しが持てるようになります。

#### ウ 小中一貫校の特色を生かした日課・週課等の設定

- (ア) 多くの教師がどの学年の授業も担当できる体制をつくります。
- (イ) 異学年の交流授業・合同授業や9学年で取り組む学校行事を設定します。
- (ウ) 全校で読書に取り組む時間を設定します。

※1 学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画。学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当が教育課程編成の基本的な要素。

※2 教育活動に関する詳細な計画書。教科をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容・使用教材・指導計画・指導方法・評価方法等を記載する。

## (2) 子どもの育ちを重視した4-3-2制の区分

### ① <9年間の区分を2段階から3段階へ>

2段階（6-3制）から3段階の区分にすることで、中学校入学時の教科担任制や部活動、上級生との関係等の急激な段差を解消し、9年間の子どもの育ちを連続したものにします。

### ② <3段階を4-3-2制に区分>

4-3-2制に区分することで、発達の段階に応じた子どもの育ちを重視します。

#### ア 子どもの育ちの視点から9年間をとらえた3段階の区分

(ア) 子どもの育ちの視点から9年間で3段階に区分することで、中学校入学時の急激な段差を解消し、4・7・9年生で各段階の最上級生体験をすることにより、子どもの自尊感情をはぐくみ、大きく成長させます。

(イ) 子ども観や授業観などの教育観を全教職員で共有することで子どもの育ちの連続性を意識するとともに、9年間の中に2回の節目を設定し、各区分の目標への子どもも到達するよう指導を進めます。

#### イ 子どもの発達の段階に応じた4-3-2制の区分

(ア) 1年生から4年生を一つの区分とし、集団の中における自己の存在を意識し、仲間と力を合わせながら関係性をつくっていきけるようになる4年生を最上級生にして自尊感情をはぐくんだり、4年間の学力保障を確認したりする成長の区切りの時期とします。

特に、本が読めるようになるこの時期に読書に親しませることや、豊かな体験活動などを通して夢をはぐくめるように指導していきます。

(イ) 具体から抽象へ思考が変化したり、思春期を迎えたりする時期であり、心身ともに大きな変化を迎える5年生から7年生を一つの区分とします。個に目覚めるこの時期に、興味・関心に応じた部活動への参加、教科担任制による専門性の高い授業などを通して夢や志をはぐくめるように指導していきます。

(ウ) 自分と向き合い、自己の存在を受けいられるようになる8年生から9年生を一つの区分とし、周囲の人とかかわる中で自らを見つめ、個性の伸長を図る指導に重点を置き、夢や志を具体的な進路選択に生かせるように指導していきます。

### (3) 9年間の子どもの育ちを支える教職員集団

- ① 小中一貫校の特色を生かし、教職員の子ども観・授業観などの教育観の共有を進めます。
- ② 教職員全体で、静浦地区小中一貫校の子どもを見守る体制をつくり、9年間の子どもの育ちの連続性を保障します。

#### ア 教科担任制への円滑な移行

9年間の成長を学校全体で見守るために、低学年部の3・4年生、中学年部の5・6年生においても専門性の高い教科について段階的に教科担任制を採用し、学級担任制から教科担任制へ円滑に移行します。

#### イ 学級担任の複数化

段階的な教科担任制の採用により、学級担任が自分の学級の子どもと接する時間が減りますが、どの教師も学級担任として配置し、複数の目で子どもを見守ります。また、子どもが学級担任と接する機会を増やすことで、子どもに安心感を持たせるとともに、9年間の子どもの育ちの連続性を保障します。

#### 【各区分で目指す子どもの姿と段階的な教科担任制（案）】

1年 2年 3年 4年	5年 6年 7年	8年 9年
低学年部	中学年部	高学年部
○読書や豊かな体験などを通して夢をはぐくむ。	○専門性の高い授業や部活動などを通して夢や志をはぐくむ。	○夢や志を具体的な進路選択に生かす。
○運動・生活・学習の習慣が定着し、スポーツや学習に進んで取り組んだり、生活のきまりを守ったりする。	○仲間と協力して取り組み、他を思いやる気持ちをはぐくむ。	○自ら課題を見つけ、自力又は協働で追究し、よりよく問題を解決する。
○周囲から認められることで自分のよさに気付き、友達のよさも素直に認められる。	○自己の学びを振り返ることで自尊感情をはぐくみ、友達のよさを積極的に見付け認められる。	○自ら設定した目標に向け粘り強く努力したり、人のために役立ったりすることで、自尊感情や自己有用感をはぐくむ。
○体験活動などを通して、静浦地区全体について知る。	○静浦の人・自然・文化・産業等についての理解を深める。	○静浦の将来について、地域の人とともに考える。
学級担任制	教科担任制 (25%程度)	教科担任制 (50%程度)
		教科担任制 (100%)



## 2 ことば

～ 「ことば」の活用を大切にした学習活動や交流活動を中心に据え、「生きる力」をはぐくむ ～

### (1) 学校図書館の充実による読書活動の推進

- ① 9年間を通して読書が大好きで本をたくさん読む子どもを育て、社会生活の基盤となる、教養・価値観・感性を身に付けさせます。
- ② 読書を通して多様な考え方や未知の事象と出会ったり、新たな発見や疑問を持ったりすることが、知的好奇心や探究心をはぐくみます。
- ③ 本や資料等から読み取った情報を的確に判断し、そこから自分の意見や考えを深めていくことにより、論理的思考力を伸ばします。

#### ア 子どもが自然に集まる学校図書館

学校図書館を校舎の中心に配置し、蔵書数の充実、新聞の配置、様々なスペースづくり等により魅力的な学校図書館にすることで、子どもが自然に集まる場にし、本に手を伸ばす子どもが増え、異学年の自然な交流が行われるようにしていきます。

#### イ 静浦に関する書籍の充実

学校図書館に静浦に関する書籍を集めたコーナーをつくり、「静浦学習<sup>※1</sup>」に役立てます。

#### ウ 様々な読書活動

9学年で、朝読書、読み聞かせ、ブックトーク<sup>※2</sup>、オーサービジット<sup>※3</sup>等、様々な読書活動を取り入れ、読書が大好きで本をたくさん読む子どもを育てていきます。

#### エ 学校図書館を活用した授業

学校図書館の「学習・情報センター」機能を充実させます。これにより、教科等における言語活動や本・資料等を使って調べる学習を効果的に行い、学校図書館を計画的に授業に活用していきます。

---

※1 静浦地区小中一貫校における総合的な学習の時間（3～9年生）の名称。

※2 子どもや成人の集団を対象に、あらすじや著者紹介などを交えて、本への興味がわくような工夫を凝らしながら本の内容を紹介すること。

※3 著名な作家が、その個性と知識・技能を発揮して、それぞれの作者ならではの講演を実施すること。

## (2) 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実

- ① 9年間の授業全体を通して、コミュニケーションの基盤となる「読解力<sup>※</sup>」を育成します。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の充実により、思考力・判断力・表現力等をはぐくみます。

### ア 「読解力」を育成する9年間の教育課程

学校における言語教育は、学校の教育活動全体で行うものです。言語科（読解の時間）の実施は、この言語教育を活性化していくものとして、コミュニケーションの基盤となる「読解力」を育成することをねらいにしています。これを授業全体に生かし、9年間を通して、コミュニケーションの基盤となる「読解力」を育成する教育課程を編成・実施します。

### イ 基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の充実

子どもが切実な問いを持ち、「ひと・もの・こと」とかかわり、主体的に追究していく中で考えたことを友達と交流し、熟考した結果を自分の「ことば」で表現する問題解決的な学習を積極的に取り入れていきます。

### ウ 9学年の子どもたちが生活する小中一貫校としての言語環境の整備

一般的に小学校と中学校では、子どもの発達の段階や教職員の教育観の違いから言語環境が大きく異なります。しかし、9学年の子どもたちが生活する静浦地区小中一貫校では、学校生活全体における言語環境も、発達の段階に応じ、9年間の連続性を意識したものにしていきます。

(例)

- ① 9学年の子どもたち全体に対して話す時には、1年生が理解できる内容であるとともに、9年生の心にも響く内容であることに留意する。
- ② 低学年になるほど、教師の書く文字や話し言葉の影響を受けやすいことを教職員全体で意識して指導する。
- ③ 印刷物などにおいては、用語、文字、振り仮名等を、対象とする学年に応じて適正に使用する。

※ ここでは、「PISA型読解力」を意味する。従来、国語科で行ってきた物語や記録などの文章の読み取りにとどまらず、表、図、地図、グラフなど「非連続型テキスト」と呼ばれる様々なテキストを解釈、熟考・評価し、自分の考えを加えて自由に表現する力である。

### (3) 「ことば」を通して思いを伝え合える人間関係づくり

- ① 9年間の授業全体や異学年交流を通して、周りの人とコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。
- ② 9年間の授業の中で、「自分の考えを伝えてみたい」「友達の考えを聴いてみたい」「集団で活動すること自体が楽しい」という思いをはぐくみます。

#### ア 周りの人とコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する9年間の教育課程

言語科のねらいである「言葉を用いて人と積極的に関わっていこうとする態度の育成」に向け、言語科（英語の時間）では、英語を使って相手とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらいにしています。これを、授業全体に生かし、9年間を通して、「伝えようとする力」「理解しようとする力」を育成し、周りの人とコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する教育課程を編成・実施します。

#### イ 学年を越えた「ことば」の交流

9学年全体での活動や異学年交流を多く取り入れ、9学年の大きな集団で学校生活を送ることのよさを実感させます。年齢が離れた学年の子どもとの交流は、上級生には下級生を思いやって声を掛ける姿を、下級生には感謝の気持ちを素直に伝える姿をもたらします。直接の会話とともに、文章によるメッセージの交換も大切にしていきます。

#### ウ 多様な追究が可能になり、その子らしさのあふれる授業づくり

かかわり合いを通して熟考した結果、自分の考えが深まったことを実感した子どもは、次も友達の意見を聴いてみたくくなります。

そのためには、まず、子どもたちの心と心が通い合う学級づくりを大切にし、相手に共感して聴く力をはぐくみます。このような学級においては、多様な追究が可能になり、その子らしさのあふれる授業が可能になります。

活発な意見交換が行われる中で、新しい視点を得たり、考えが深められたりしていくことにより、子どもたちはかかわり合うことのよさを実感します。

このように、かかわり合いを通して、友達のよさを認めたり自分のよさに気付いたりすることで、自分も相手も大切にできる子どもをはぐくみます。

### 3 地域

～ 静浦の人・自然・文化・産業等を生かし、「地域」全体で生涯学習を推進し、「生きる力」をはぐくむ ～

#### (1) 学校・家庭・地域が連携して進める環境教育

- ① 静浦の豊かな自然に触れつつ、環境について主体的に学習する場を設定します。
- ② 学校で行う環境教育の成果を、家庭や地域で生かします。

#### ア 静浦の豊かな自然の活用

静浦地区は、沼津アルプスと駿河湾の間に位置し、豊かな自然に恵まれています。「静浦学習」や学校行事あるいは地域行事でこれらの自然に触れる機会を増やすことで、環境について考えたり、自然を守っていくための活動に取り組もうとしたりする子どもを育てます。

#### イ 校内における環境教育

文部科学省が示した「エコスクールの基本的な考え方<sup>※</sup>」を踏まえて、エコスクールの整備を進め、環境教育を通して学んだことを家庭や地域でも生かしていける子どもを育てます。

(例)

- ① 太陽光発電による電力の活用
- ② 屋外緑化…小グラウンドの芝生化、静浦地区の土地本来の樹木を中心に植栽する「静浦の森」づくり
- ③ 木材を利用した内装

※ エコスクールの整備における三つの留意点

- 1 施設面…やさしく造る
  - ・学習空間、生活空間として健康で快適である。
  - ・周辺環境と調和している。
  - ・環境への負荷を低減させる設計・建設とする。
- 2 運営面…賢く・永く使う
  - ・耐久性やフレキシビリティに配慮する。
  - ・自然エネルギーを有効活用する。
  - ・無駄なく、効率よく使う。
- 3 教育面…学習に資する
  - ・環境教育にも活用する。

[出典]「環境を考慮した学校施設(エコスクール)の整備について(報告書)」  
平成8年3月 環境を考慮した学校施設に関する調査研究協力者会議

## (2) 学校と地域の協働で創る双方向の交流

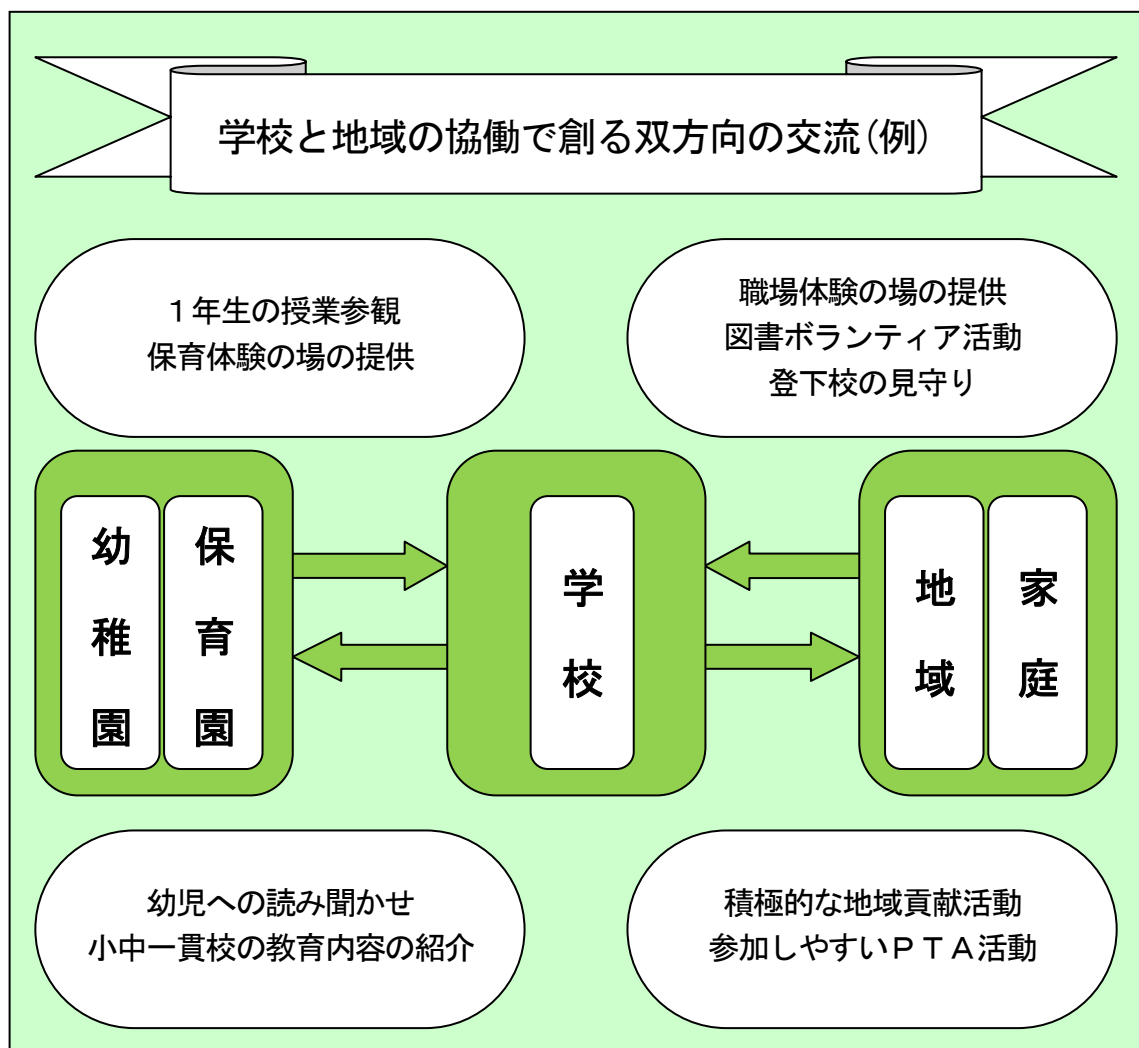
- ① 静浦地区にある豊富な教育資源（人・自然・文化・産業等）を積極的に教育活動に取り入れます。
- ② 学校から外へ出てボランティア活動等で、積極的に地域に貢献します。

### ア 地域の教育資源の活用

地域にある豊富な教育資源を活用し、図書ボランティアや学習支援ボランティアなどで学校内の教育活動に協力を得るほか、学校外でも体験学習の場を提供していただき、子どもたちの学習を充実させます。

### イ 積極的な地域貢献活動

9学年の子どもたちによる海岸清掃や漁港清掃などのボランティア活動、災害発生に備えた地域防災訓練への参加等、積極的に地域貢献活動に取り組みます。



### (3) 「ふるさと静浦」から学ぶ子どもの育成

- ① 地域について学ぶことにより、「ふるさと静浦」を愛する子どもを育てます。
- ② 地域における体験活動を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自主的・自発的な学習を促進します。

#### ア 「静浦学習」カリキュラムの作成

「静浦学習」では、地域について学び、地域の人たちとかかわり合い、ともに地域の将来について考えていく学習により、「ふるさと静浦」を愛する子どもを育てます。そのための「静浦学習」カリキュラムを作成します。

#### イ 体験活動の充実による自主的・自発的な学習の促進

体験的な学習は、主体的に学習に取り組む能力を身に付けさせるとともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ学習意欲をはぐくむ上で有効です。

静浦地区小中一貫校では、地域における豊かな自然や地域の人たちとのかかわりを通して学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自主的・自発的な学習を促進します。

(例)

- ① 「静浦の森」で採れたドングリやその他の種子を、他校に贈ったり、苗に育てたりして、森づくりに取り組みます。
- ② 海を通して、静浦地区の産業や環境について学びます。
- ③ 地域における環境教育や職場体験・保育体験などの体験活動を充実させます。
- ④ 静浦の様々な事象を教材化し、身近な体験を通して実感のある学びを積み重ねていきます。

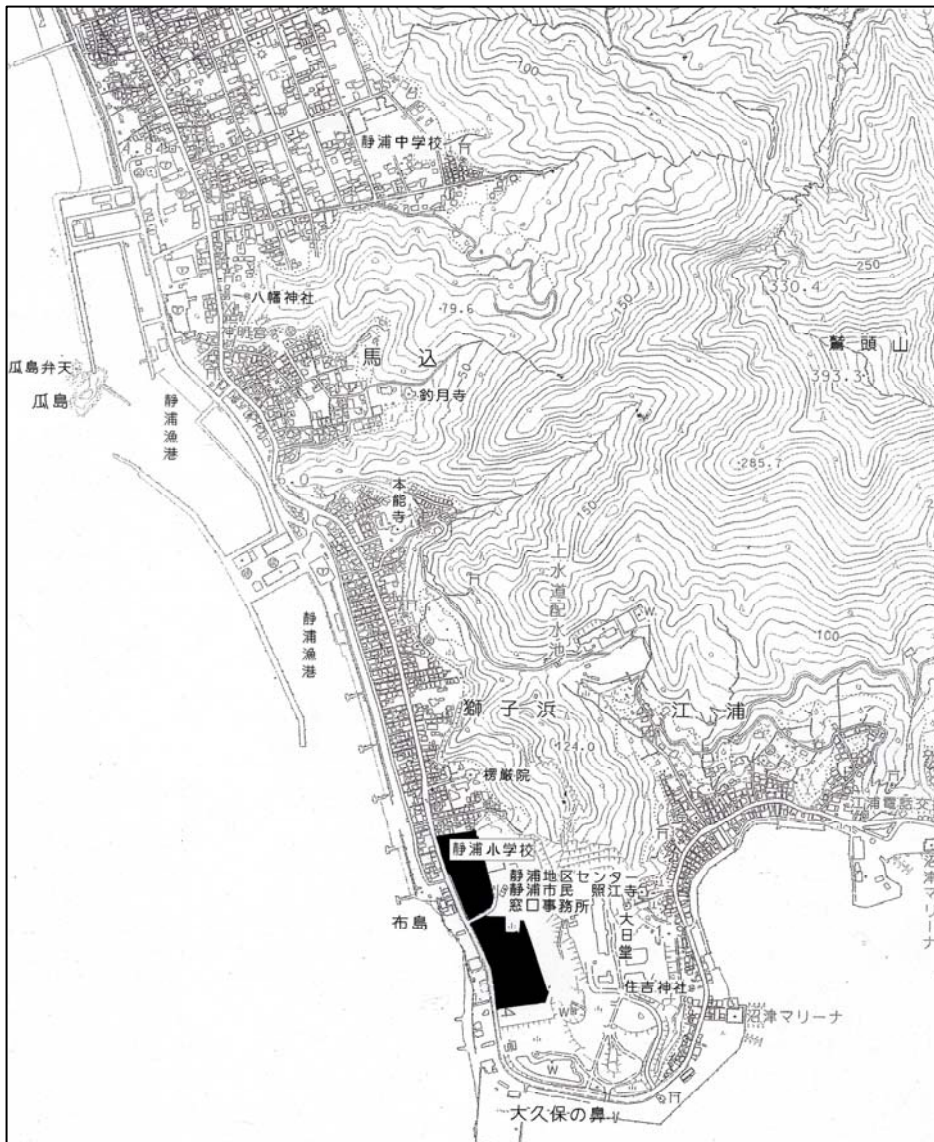
## IV 施設整備に関する基本方針

### 1 施設整備に関する基本的な考え方

静浦地区小中一貫校は、施設一体型の小中一貫校とし、9学年のどの子にも利用しやすい施設にするとともに、子どもたちが自然に交流できる場を設けます。

#### (1) 小中一貫校整備の場所

ア 静浦小学校の校地並びに同校地南側に取得した学校用地に小中一貫校を整備します。



## (2) 整備の主な方針

文部科学省の学校施設整備指針を踏まえて、以下の点に配慮し整備を進めます。

- ア 9学年の子どもたちが安全で快適な学校生活を送ることができる、よりよい教育環境の整備に努めます。
- イ 近隣に及ぼす影響を極力抑えるとともに、静浦の自然との調和、景観に配慮します。
- ウ 学校は、未来へと受け継がれる地域社会の財産という観点に立ち、永く使い続けることができる構造とします。また、海岸沿いに位置しているため、塩害対策にも努めます。
- エ 環境に配慮したエコスクールの整備を進めていきます。
- オ ユニバーサルデザインに配慮した施設整備に努めます。
- カ 地形、日照、風向などを考慮した配置とします。



## 2 個別計画の主な方針

### (1) 各施設の整備計画

#### ア 校舎

##### (ア) 配置計画

- ① 津波から子どもたちの安全を確保するため、校舎を陸開<sup>りっこう</sup>\*1の北側に配置します。
- ② 現況の校舎及び仮設校舎を使用しながら新校舎の建設計画を進めていきます。
- ③ 建物の向きや位置は、採光、日照、通風、湿気防止、眺望などに支障がないように配慮します。

##### (イ) 整備計画

- ① 校舎の整備に当たっては、小中一貫校の特性を生かすよう、以下の視点をもって計画します。
  - ・ 9学年の子どもたちの発達の段階に対応した施設
  - ・ 異学年交流を促進する施設
  - ・ 柔軟な教室配置を可能にする全室が中学校基準の教室
- ② 中央教育審議会初等中等教育分科会の「提言<sup>\*2</sup>」を踏まえ、30～35人学級に対応した教室数を確保します。
- ③ 学校図書館を校舎の中心に配置します。
- ④ あたたかみのある空間づくりのために内装の木質化を進めます。
- ⑤ 廊下を広く設定し展示スペースに利用するなど、ゆとりのある空間スペースを検討します。
- ⑥ 校舎内に放課後児童クラブを設置します。

---

※1 洪水や高潮時に堤防の機能を確保するために締め切ることのできる施設。国道414号を遮断できるように静浦地区センターへの進入路入口付近に設置してある。

※2 「今後の学級編成及び教職員定数の改善について（提言）」（平成22年7月26日）  
小・中学校の学級編成の標準（単式学級）を、現行の40人から引下げ。小学校低学年については、さらなる引下げを検討。

## イ 体育館・プール等

- (ア) 体育館は、静浦小学校の体育館を使用します。
- (イ) 平成24年度から武道が必修となるため、それに伴う施設の整備を検討します。
- (ウ) 9学年の子どもたちが安全に利用できる水深調節が可能なプールを設置します。

## ウ グラウンド

- (ア) 体育の授業及び部活動に使用する大グラウンドと、低学年の子どもが体育の授業や休み時間に安全に利用できる小グラウンドを設置します。大グラウンドは、静浦小学校の南側に取得した用地に、小グラウンドは、静浦小学校校地に設置します。
- (イ) 大グラウンドは、東海地震に対する安全に配慮します。
- (ウ) 大グラウンドは、施設の開放を考慮し夜間照明灯を設置します。
- (エ) 小グラウンドは、芝生化を検討します。

## エ その他

- (ア) 駐車場は、教職員のほか、来訪者の駐車も考慮に入れ整備します。
- (イ) 登下校時や校外学習・学校行事でバスを利用する際に、子どもたちが安全に乗降できるように配慮します。

## (2) その他の整備計画

### ア 設備計画

設備に関しては、CO2排出量削減をはじめとした環境への配慮に取り組み、省エネ性、機能性、快適性を確保するとともに、メンテナンスが容易に行えるように計画します。

- (ア) 子どもたちの健康や授業に集中できる環境づくりのために空調設備の設置を検討します。
- (イ) 太陽光発電設備を設置し、CO2排出量削減に努めます。
- (ウ) 情報教育の促進を図るため、学校内でのネットワークアクセス環境（校内LAN）を整備します。
- (エ) 特別教室は、9学年での使用が可能になるように配慮します。
- (オ) バリアフリーに配慮した施設の整備を検討します。

### イ 緑化計画

- (ア) 周辺環境と調和した適切な緑化に努めます。
- (イ) 静浦地区の土地本来の樹木を中心に植栽する「静浦の森」づくりを進めるとともに、塩害対策として大グラウンドの道路沿いに防潮林の設置を検討します。